



は
じ
め
の
言
葉

八重楼のつぼみが急にふくらんで、
気の早い木の芽が美しい緑を覗かせる
ころは、こども達の心の芽生えもいき
いきとして燃えたちます。幼稚園や保
育所が始るからです。送りこむお母さ
ん方も楽しいでしょう。迎え入れる保
母さんたちにも希望があるでしょう。
今日は編集の方の御希望で、この頃の
保健ということで書いてみることにな
りました。

こ
ど
も
の
保
健
の
あ
り
方

新入園児の保健

齋藤文雄

わたし達は、赤ちゃんの保健とか、
幼児の保健とか学童の保健とか、いろ
いろに分けていますが、結局は生れて
から大人になるまでの個体のつながり
の一事であることを忘れてはなりま
せん。こどもが成長してくるにつれて
心の方もからだの方も、その時代時代
に應じてかなりの変化を見せることは
御承知の通りです。その変化に沿つて
より一歩先に恙なく伸びるように手伝
つてあげることが保健の要諦であると
申せましょう。ですから、幼稚園や保
育所に入つたから、今日からの保健は
今までと全く違ふと考へるのは当らぬ

ことです。やつぱり今までと同じよう
に、衣食住の保健はそのまゝの形で続
いてまいります。たゞ、今までの保健
は、家族とこども、或いは両親とこど
も、もつとつきつめて考えれば母親と
こどもという関係で保健が成りたつて
いたので、幼稚園保育所にあがり
ますとその点が、がらりと変ります。
こどもを中心として、一方に家庭、一
方に幼稚園保育所といった三角関係に
なります。これをはつきりいゝます
と、こどもの個人的な保健が、少し範
囲をひろげて社会的な意味をもつてき
たということができましょう。

この点は母親もよく弁えておかなければなりません。幼稚園や保育所を考えないで自分の子の保健はもうなりたくないのです。少しきつい言葉を使えば、親からだんだん独りだちしてゆくそもその初めの時だということですから。しかし、それが子どもの幸福であるなら母親は積極的に、三角関係の一角の責任を果す覚悟をもつべきでしょう。保健は個人の衛生と公衆衛生との二つに分けることができますが、幼稚園や保育所に入つたら、その子はもちろん個人衛生だけを対象とするわけには行かないのです。こゝらで最少し詳しく入つてみましょう。

お母さんの立場

子どもを幼稚園や保育所に入れて、やれほつとした、これで保母さんに世話して貰えるという安心感もありました。あゝ小さい時あんなに苦勞して育てたことがあつたが、この子も幼稚園にゆけるようになったと、戦後の混

乱に結びつけての懐旧の念も起るでしょう。しかし、母親としては、あとひとつ、これから先のことも考えてみなければなりません。子どもが病氣をしたら、それはわが子の病氣だけで済まなくなる時が来ているのです。もつと子どもの保健については真剣に考えてゆかなければならない時です。それにはどうしても幼稚園や保育所との密接な連絡が必要になつてきます。たえず保母と連絡して、それとなく家庭と施設の両方から子どもの保健問題を考えなければならぬのです。母親方は母子手帳を御持ちでしょう。生れた時から何回目方を記入したか、予防注射は何回うけたか見てほしいものです。目方が五六回などいうことでしたら、その母親は本当に子どもの保健を考えたか疑いたくなります。それはとにかくとして、幼稚園や保育所に一応母子手帳を持つて行つて、今までのこの子の育ちぶりはこうですということを示して、ほしいと思います。それに関係して、

はしか、百日咳、お多福かぜ、水ぼうそう、こういう伝染病の中、何はすんだ、何はまだということも紙にかいて保母まで届けてほしいと思います。B・C・Gはいつといつ何回やつたか、それも母子手帳にかいてないようでしたらお話ししておいて下さい。

それから、幼稚園や保育所に入りたての子は、心もからだも、かなり緊張しますから、どこかに疲勞がきます。不機嫌、興奮、食欲不振、寝ごと、睡眠不足、便通の調子のくるい、といったように色々な形で疲勞があらわれます。こういう時体重をしらべておくのはいいことです。から、入りたての時、それから毎週一回、一月くらいは続けてみるといふでしょう。体重にまで影響があるようでしたら、慣れるまでの家庭の扱いは氣をつけなければなりません。そろそろ眠いころに父親が帰つてくる、今日は幼稚園で何をしました。歌つてごらん、踊つてごらんと物

珍らしさに強いるようなことは、本当の子どもを知らない父親です。入つてからその生活に慣れるまでは、できるだけ疲れないように気をくばりましょう。

一度幼稚園なり保育所なりに入れたら、やたらにお休みをさせないで下さい。少しぐらいの雨風や、家庭の行事で、こともなくお休みさせる母親がありますが、これは困ります。幼稚園や保育所の保母が困るといふのはありません。子どもの保健上困るのです。折角規則正しい生活に心もからだも慣れて、一日のリズムに合せて、筋肉も消化器のような内臓もうまく働き出している時に、自分の意志でなく母親にお休みを宣言されるのは、いゝことではありません。

その代り、子どもが病気をした時は休ませて下さい。そして保母に連絡して下さい。母親の中には、幼稚園や保育所で病気をうつされることを非常に

怖がつていながら、自分の子がジフテリアなどして回復しますと、のどの菌がまだいるかも知れないのに、早く行きたい行きたいとせがまれて、子供を幼稚園や保育所にゆかせる方があります。こんな母親は社会観念のない母親だといはれてもしかたがないでしょう。自分の子の保健が幼稚園保育所では、直接他人の子につながつていゝことを考えたら、こんなことは出来ない筈です。念には念を入れませんと、とんだところで人格を疑われます。

保母は、これから子供達にいろんな初歩衛生の実践をやつてくれます。そのひとつひとつをよく了解して頂きたいと思います。うがい、手洗い、鼻をかむ、おもらしをしないというよくな、子どもの自立と社会性を狙つたしつけが始まりますが、これは、ある意味では、子どもを通しての家庭教育かも知れません。食事の前にちゃんと手を洗うことが、どの家庭でも行つていてくれたらいいのですが、そうでないと

幼稚園や保育所にいる時だけの手洗いで、親がやらないから家では洗はなくていゝんだというふうな子になつてしまいます。保健の問題では、幼稚園や保育所がやる時は、必ず家でもみんながやるという風にして頂きたいのです。

保 母 の 立 場

保健を忘れた保育は片輪です。それよりも新入學の子を預つての当座必要なのは、ひとりひとりの子への愛情でしょう。こゝ一カ月の毎日は恐らく、くたくたでしょうが、まづ子供達に親まれる保母になることが大切でしょう。一日八時間の労働基準法では間に合わない日がつずきますが、こゝ一月の子たちの伸び方のめざましさを樂しみに頑張りますよう。

保健面で先づ第一に申上げたいことは、ひとりひとりの子の健康カードを作つてほしいことです。その子の生いたちから、母子手帳を参照して、身体

計測値、予防注射の回数と時日、今まで罹つた病氣、まだやつてない伝染病のところは赤インキで、一応個人票をつくりましょう。それを土台にして、これから先の保健を考えます。

ひとりひとりの子がみんな違つた性格と体力をもつています。それをまとめてゆくのは容易でないでしょう。しかし本誌三月号で倉橋惣三先生は保育の対象は幼児一人々々にあると書いておられます。ひとまとめの子供たちではありませんが、ひとりひとりという倉橋先生の仰言の意味は保健面でも申せることなのです。発育と体力のひとりひとりの違いに目をつけるべきでしょう。筋肉の弱い子もあり、心臓の弱い子もあるのです。それらの違いを早く見出すことが大切です。

朝来た時のこどもの健康の視診、これのひとつひとつを述べることは余計なことでしょうから略しますが、これは毎日必ず実行して頂きます。そして、

眼、咽喉、鼻、皮膚などの異常に気がついたら、その日一日注意して、もし他の子が心配だという症状が出たら、それ相応の処置が必要になりますしよろ。

こどもは当分疲労しやすいと見なければなりません。こどもは自分で疲れたとは申しません。食事をしない、よく泣く、不機嫌になる。興奮してはしやぐというような形で現われがちです。から、そんな場合は、そつとしておくに限りません。

病氣の症状、たとえば、鼻水、くしゃみ、咳、嘔声、下痢、痛み、嘔吐、発疹など気がつきましたら、そのことを紙にかいて家庭にもたせてあげて下さい。

一応の保育カリキュラムができるわけですが、すべての子が落つきを示すまでは、容易にプラン通りにまいりません。プラン通りにゆくようになりませんが、必ずすべての子が同じように

というわけには参りません。そういう子ほどいちらしいものですが、保母の眼は、それが性格から来ているのか、身体から来ているのかすぐ判断つけてくれるでしょう。それが身体から来ているとしたら、その子こそ気をつけて保育すべきでしょう。一日も早くみんなと一緒にと思つてしようが、あまり焦ることなく、しづかにより健康へを目指します。

身体測定、虫歯の検診は一学期に一回か二回は最小限度に必要です。それらの記録は、とりつ放しにしないで、その子その子の特長をつかんで、次の保健のテーマにします。それには家庭の連絡が必要ですから、時々母の会以外に、同じようなタイプの子の母親に集つてもらつて、今後の保健を話しあうようにすることをおすすめします。

(筆者醫學博士愛育研究所々長)